

城取博幸の
島原のスーパーマーケット見聞録

N0140

2021年4月

城取フードサービス研究所

城取 博幸

長崎県島原にスーパーマーケット見聞録
熊本港から島原港へ(今年4月訪問)
オーシャンアローというジェットフォイル

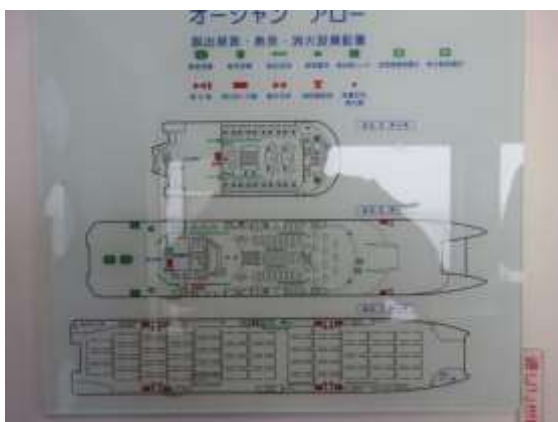


前の席はスペシャルシート



2階席 乗客が少なくガラガラ

案内図



オシャレな船だが

土産物屋はそらの屋台のようだ

ラウンジでジュースを一杯



熊本を後にする

島原に近づく



奥に見えるのが「雲仙普賢岳」

雲仙普賢岳の火砕流被害からもう 30 年

1991 年 6 月 3 日 火砕流発生

島原港ターミナルビルの看板 右下の名物料理に興味があり撮影



観光で山の近くまで行くことができるが今回は遠慮する

市内のビジネスホテル 朝食はついていないが安い

部屋は狭いがいい部屋を取ってくれた 奥には



島原城が目の前 ラップが置いてあるのがうれしい

熊本で買ったひじきご飯、おにぎり、チーズボールで夕食



観光MAP

原城跡はけっこう遠い

さらに先の「口之津」まで行く予定

三井が開発した港で、ここから石炭がアジアに輸出されていた

それと、ここには「からゆきさん」の資料館がある



観光地MAP

今回は原城、島原城、資料館

それに地元のスーパーマーケットと名物料理を食べるのが目的



島原、天草は、キリシタン大名「小西行長」「有馬晴信」の領土であった
有馬晴信は関ヶ原の戦いで、加藤清正と共に東軍につき小西行長の宇土城を攻撃した
その後、長崎奉行を殺害しようと計画したことがバレて自害
小西行長は関ヶ原の戦いでは西軍についたが敗れて自害
その後、松倉重政は家康から肥前日野絵江 4 万 3 千石を与えられる
4 万 3 千石でありながら、10 万石の大名に匹敵するような身分不相応な城を築いた
これが領民を搾取し不満につながった



松倉勝家、島原の乱の原因を作った悪名高い島原藩主！

島原の乱の原因を作った 松倉勝家
島原の乱は「百姓一揆」+「キリシタンの反乱」

勝家はドラキュラ伯爵のような残酷な人物とされている
詳しくは

松倉勝家、島原の乱の原因を作った悪名高い島原藩主！ 松倉勝家、島原の乱の原因を作った悪名高い島原藩主！について紹介しています。脚本・監修：歴史じつくり紀行チャンネル登録はこちらどうぞ
https://www.youtube.com/channel/UCT-xz7Ot0fmEcyVAbnVftmw?sub_confirmation=1【関連動画】信長を裏切



明日は、1637 年～1638 年に起きた、日本最大の一揆「島原、天草の乱」の舞台になった「原城城址」へバスで向かう
資料館巡りもする予定だ

島原、天草の乱(1637年12月11日～1638年4月12日)

安土桃山時代～江戸時代初期

宗教的側面は表面上のもので、あくまで藩の厳しい収奪に反発した一揆であった

肥後天草でも、小西行長、加藤忠広の改易により大量に浪人が発生し一揆が組織された

幕府側 125800(死傷者 8000人)、一揆軍 37000(幕府側発表)全滅 投降者数は不明

一揆軍は島原城を攻めたが攻めきれず原城に籠城



バス乗場に向かう

中央はサンシャイン中央アーケード



島原バス大手から原城跡へ

バスは海岸線を走る



原城前で下車



原城跡周辺案内図



原城跡説明

島原、天草一揆は江戸幕府に大きな影響を与え、カトリック宣教師の潜入の可能性のあるポルトガル船来航を禁止したそこから2世紀を超える「鎖国」が確立した
島原の乱 キリシタン潜伏のきっかけ



世界文化遺産 002 第2回「潜伏 のきっかけ...島原の乱」JP

詳しくは

世界文化遺産 002 第2回「潜伏のきっかけ…島原の乱」JP 世界文化遺産「長崎と天草地方

の潜伏キリシタン関連遺産」Ⅱ 潜伏のきっかけ…島原の乱 1637年(寛永14年)、かつてキリシタン大名が統治していた島原と天草で、大規模な宗教一揆が起こった。島原の乱と呼ばれている。キリシタン禁制が続く中、い

ったんは棄教していた農民達が一斉にキリシタンに立ち返り、キリスト教信仰の容認を幕府...



近くにキリシタン資料館があるので、先にそこで知識を得てから原城に向けよかった



予想以上に大きな城

この辺は幕府軍の「仕寄場」があった場所



幕府軍は帯状に仕寄場を築き一揆軍を追い詰めた

仕寄場とは、城内からの攻撃を防ぐため、竹束や柵などの構築物をつかった

幕府軍は何度か攻撃を行ったが予想以上に反撃が強いため、兵糧攻めに切り替えた

大手門に向かう



三の丸跡

原城は6万㎡もの広さ

自然を生かした中世的な土造りの構造の曲輪(くつわ)が数多くある



大手門跡

水堀の跡もある



坂道は海に向かって

三の丸の東側の門 城内にいったん侵入したあと直角に折れ曲がる「枅形虎口(ますがたこぐち)」になっている



海からも

沖に外国の軍艦が現れた 一揆軍はポルトガルの軍艦が加勢に来たと大いに喜んだがそれはオランダ船であり一揆軍に向けて砲撃を加えてきた プロテスタントがカトリック教徒を攻撃した 一揆軍は一気に士気が落ちたという 海はすぐ近く



この大地は火山灰土だ

サラサラの砂地 普賢岳の噴火によるものだろう 道端のアザミ



二の丸跡

この辺が激戦となった



さらに進むと奥に石垣が見える

案内図



キリシタンの墓の写真も

かまぼこ型だ

ここが原城跡



1599年～1604年頃に、キリシタン大名「有馬晴信(1567年～1612年)」によって築かれた城
1616年、有馬氏後の松倉重政は城を島原に移したため、廃城となっていた

有馬氏がつくった城



空堀跡

当時はもっと深かったと思われる

幅10m、奥行き39mの堀

空堀に一揆軍の居住した建物があったという



石垣

説明



埋門跡

一揆後は幕府軍により徹底的に破壊された

石垣の下に一揆軍の死体を埋めた



本丸門跡

本丸に通じる最後の門



本丸跡

総大将の「天草四郎」が籠城した場所
十字架、ロザリオ、メダイなどが出土した



本丸跡の図

櫓台跡



大きくせり出した石垣
三層の櫓で建てられていた
十字架



天草四郎時貞の墓碑



15 歳とい若さで一揆軍の総大将となった

88 日間籠城したが、本丸で斬首され長崎で首をさらされた



天草四郎の像



信念にもゆる

ソテツが植えられている



慰霊碑

左分利久の墓



鳥取藩池田家の家臣で使者として有馬の地に来た人物
死の直前、近くの石に自分の名前と日付を刻み込んだ

毛利氏の家紋

わざと逆さまにしてあるのか



破却された石垣跡

破壊された石垣



赤と白のツツジがキレイだ

一揆軍はこの景色をどう思っていたのか
目を盗んで海藻を取り、飢えをしのいでいた
腹を開いてみると海藻しかなかったという



観光案内所があったので話を聞く



新ネタがないか聞いてみる

天草四郎の家

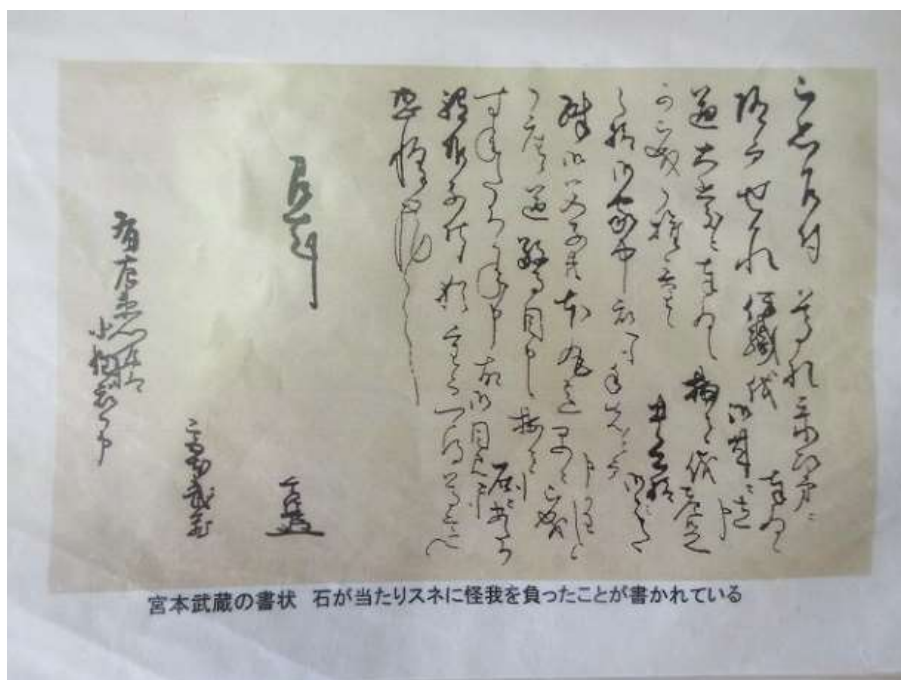


復元予想図

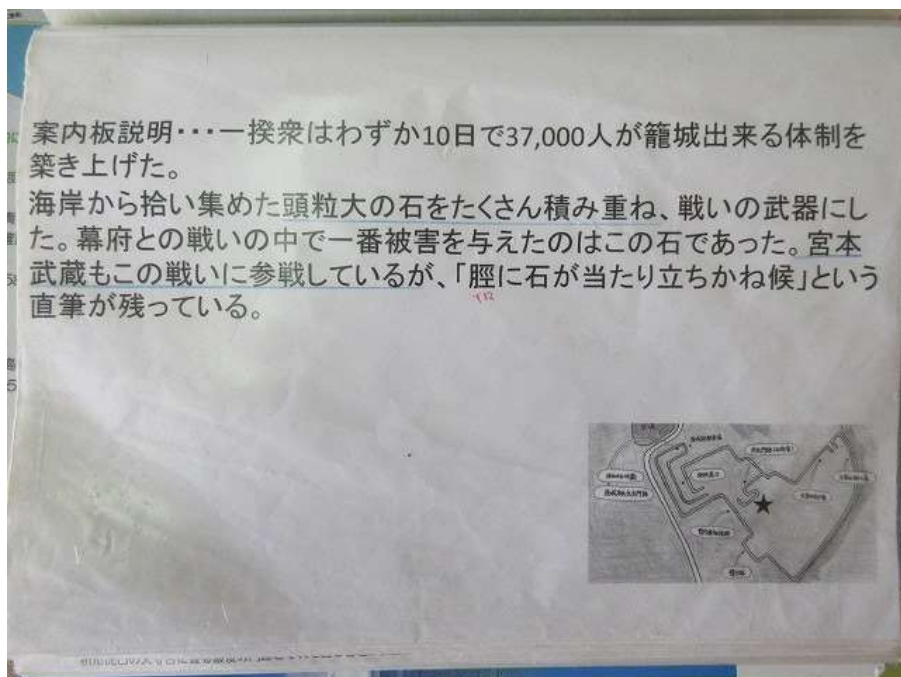
これは貴重

宮本武蔵の書状

武蔵も幕府軍で参戦している



海岸から拾い集めた石が武器になって一番被害を与えたという
確かに堀の上から石を投げれば威力が増して武器になる
下から投げても威力がない
武蔵も負傷したと書かれている



島原駅前の石垣の上に石
石垣の老化防止かと思っていた



観光案内所で聞いてみると「この石が武器になる」と教えてくれた
確かにこの大きさの石を堀の上から投げられたら大けがをする
さすがに宮本武蔵も勝てなかった
なるほど
バス停に戻り、キリシタン記念館に向かう ここで興味ある話を聞く



かなり背が高い鯉のぼりキリシタン記念館1kmとあるが、それより距離があるように思う



牢屋跡は興味があるが歩き疲れた

道脇のトマト



有馬キリシタン遺産記念館



入口



キリスト教伝来から繁栄

1582 年天正遣欧少年使節団の船出



1587 年、伴天連(バテレン)追放令を発布
1597 年、日本二十六聖人殉教



フランシスコ・ザビエル
ヴァリニャーノ



日本二十六聖殉教の油絵

原城跡から行き先を口之津に変更したため、日野江城は見ていない
残念

日野江城の階段遺構が物語る独自性
石の階段は安土城のものとよく似ている
かまぼこ型の石は大分竹田の丘城の石垣にも見られる



詳しくは



まずビデオを見る

なぜか英語だ

有馬氏の島原日野江城

その近くには多くのキリシタン遺跡が残っている



原城周辺の景色は悲劇的であった

南島原はキリスト教初期の習慣がある



13代有馬晴信は鎌倉時代から400年続く南島原の領主であった
有馬家のルーツは龍造寺から



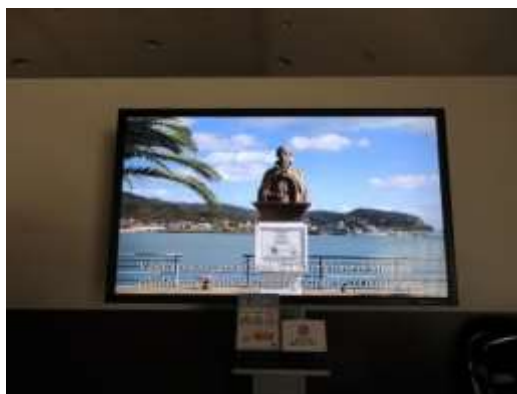
この時代は経済的にも軍事的にも外国貿易の影響があった

城の東の尾手川で多く発見されている



織田信長の安土城によく似た作りであった

有馬晴信の石垣のつくりは外国の影響を受けている



イエズス会のヴァリニャードは使命を持って日本を訪れている

有馬晴信の庇護のもと日野江城近くに「有馬のセミナリヨ」をつくる

* 安土城の近くには「安土のセミナリヨ」跡が残っている



有馬セミナリヨ跡

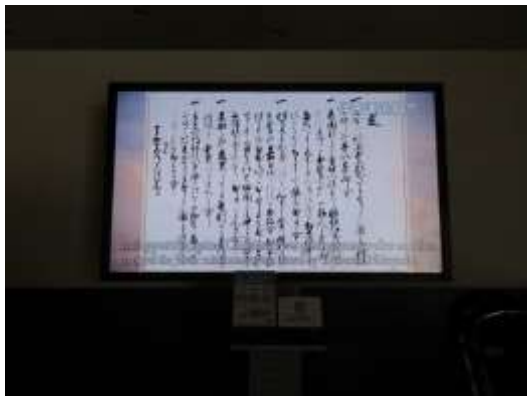
1582年(武田氏滅亡、本能寺の変の年)

長崎から日本最初の「天正遣欧少年使節」がヨーロッパに向けて出発



豊臣秀吉の時代

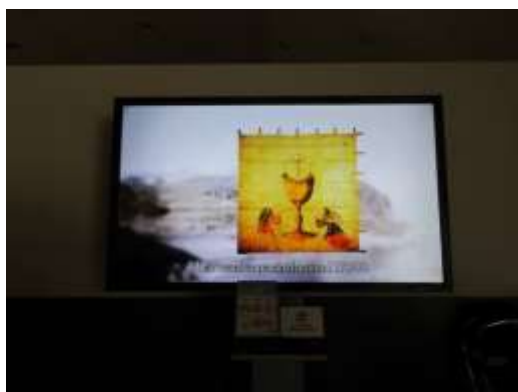
大村純忠(すみただ 有馬晴信は甥)や、大友宗麟(そうりん)はすでに亡くなっている
伴天連追放令(ばてれんついふれい)



将軍令でキリスト教が禁止された
松倉家が島原に着任し、重税や領民を使って島原城建設に着手



雲仙地獄の拷問の図
島原、天草の一揆



集まったメンバーは 37000 人に及んだ

隠れキリシタンと大浦天主堂



南島原で発見されたクリスチャン墓石

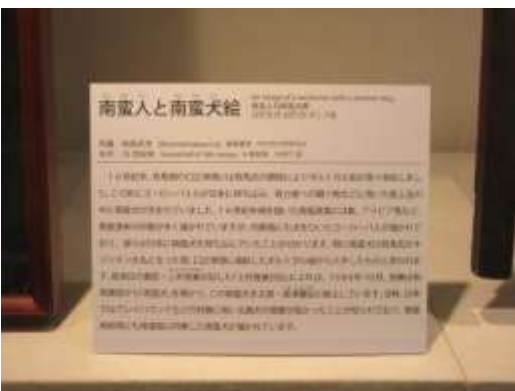
展示室

少年使節団が落ち帰ったゲーテンベルクの印刷機(レプリカ)



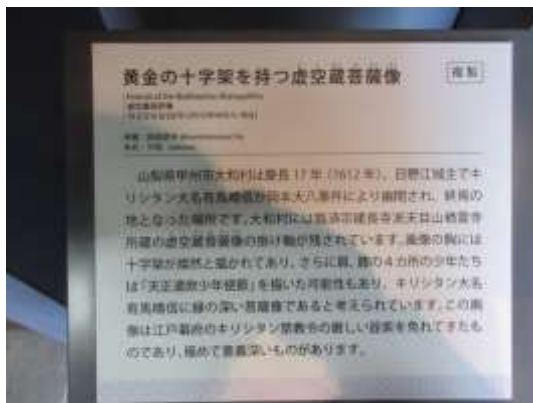
文字盤

南蛮人と南蛮犬の絵



16世紀、ポルトガル人が「口之津港」の持ち込んだ献上品の中に南蛮犬もいた

黄金の十字架を持つ虚空蔵菩薩像



山梨県甲府市大和村は、1612年、日野江城主でキリシタン大名「有馬晴信」が「岡本大八事件」により幽閉された、終焉の地となった場所

大和村天目山栖雲寺所蔵の「虚空蔵菩薩像」

胸の十字架は分かるが、肩、肘の4人の少年(使節団)の絵はよく見えない

発掘のジオラマ

スタッフが案内してくれた



石垣の下に埋められていた

刀傷が残る人骨



キリシタン関連遺産

口之津は昔からの貿易港

ここから「からゆきさん(江戸末期～明治初期)」も石炭と一緒に海外に出て行った

日本では殆ど紹介されていない「からゆきさんの展示」も多いということで、急遽タクシーで口之津へと向かう



南島原口之津

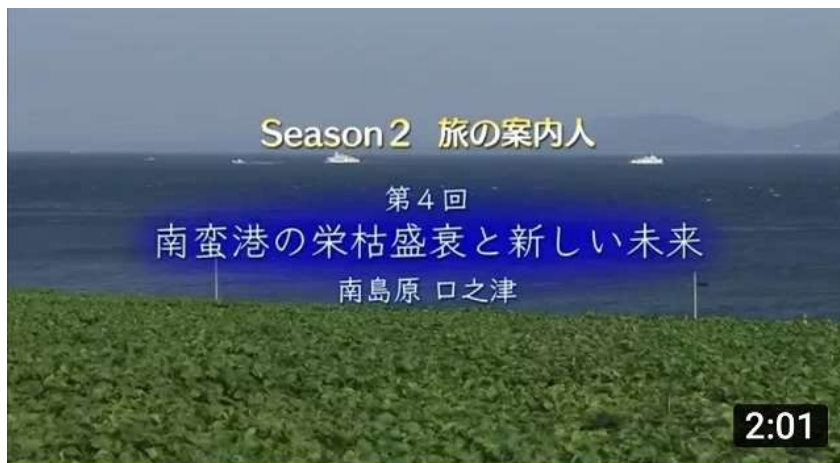
キリシタン資料館からタクシーで口之津に向かう

バスでも行けるが本数が少ないためタクシーを利用

口之津は島原半島の先端部分



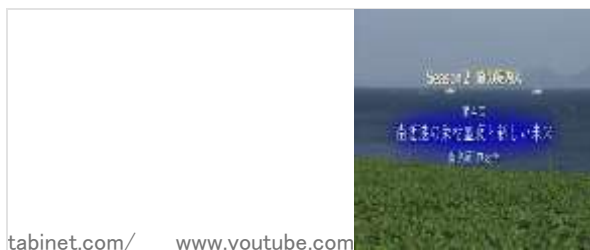
南蛮港の栄枯盛衰と新しい未来 南島原口之津



南蛮港の栄枯盛衰と新しい未来 【南島原 口之津】（長崎...

詳しくは

南蛮港の栄枯盛衰と新しい未来【南島原 口之津】(長崎県観光) 島原半島の最南端 7、口之津。16 世紀、キリシタン大名として有名な有馬晴信の父義貞は、天然の良港であるこの地を南蛮貿易の拠点とするべく、世界に向けて開港しました。長崎県の旅情報は「ながさき旅ネット」が便利です！<http://www.nagasaki->



tabinet.com/ www.youtube.com

口之津港は山に囲まれた地形

- ① 部風雨を防ぐ山に囲まれていた
- ② 潮の流れに影響を受けない
- ③ 水深が深いなど

石炭輸出に恵まれていた



赤い橋を渡り資料館分館に向かう

歴史民俗資料館 海の史料館

口之津には資料館が二つある

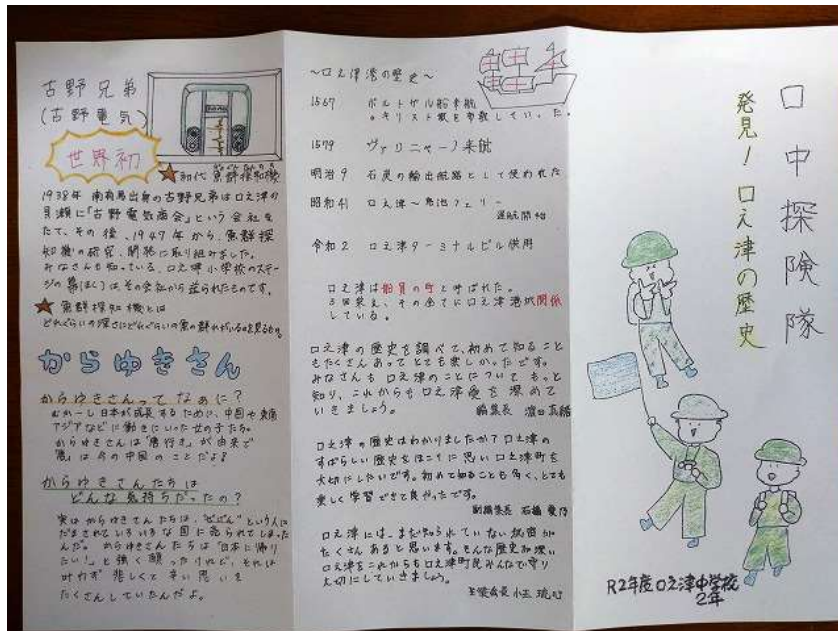
ここは分館だが展示物は圧倒的に多い



パンフレット

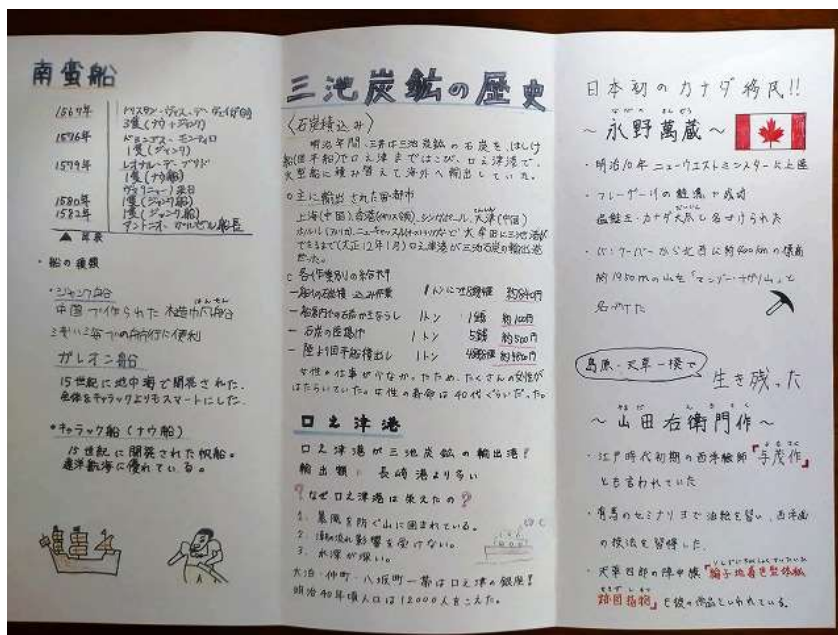


中学2年生が書いた「口之津の歴史」
 古野兄弟は世界で初めて「魚群探知機」を開発した
 「からゆきさん」についても触れている

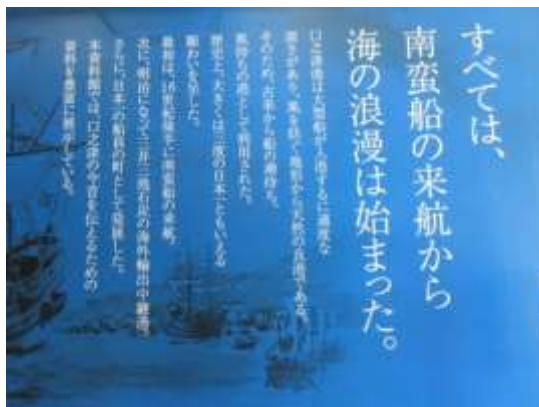


三池炭鉱の歴史
 三池炭鉱の石炭をはしけで口之津まで運び大型船に積み替え
 上海、香港、シンガポール、天津、ホノルル、ニューキャスル(オーストラリア)まで運ばれた
 長野万蔵 日本初のカナダ遺民

バンクーバーから西約400kmに「マンゾー・ナガノ山」という山があるという



展示物



全ては南蛮船の来航から 口之津は、16世紀には南蛮貿易 明治になって三井三池石炭の海外輸出中継港であった 長崎港は三菱の開発海の史料館



新聞記事

歴史民俗資料館



与論館

与論島の人達は台風の被害から、明治 32 年集団移住し、苦勞を重ねて口之津繁栄の一端を担った

輸出港当時の石炭積みの人達

明治 40 年ごろの人口は 12000 人であった



当時の菓子、雑貨店

農具の展示



食器類 昔は集まりはお膳が基本であった

「さかい重」一番下の重に納まるようにできている



マリア観音

キリシタン禁制時代、マリア像に模して信者が密かに拝んだ白磁の観音像

有馬時代はキリシタンが多かったが、松倉時代はキリスト教を弾圧した

それが島原の乱の引き金になった 口之津の庄屋の身重な妻が水楼で亡くなり、そこで代官を殺害したことから一揆が始まったと言われている



「帝国・米英と開戦す」に新聞記事

大東亜戦争



「繰り返すまい、この惨禍」

口之津は軍港であったため空襲された
当時の自転車も



からゆきさんをしのぶ

からゆきさんは口之津だけでなく、長崎や神戸からも海外に出かけて行った
からゆきさんの展示をしているのは珍しい

左の男性は「女衞(ぜげん)」か

明治時代には、1年間拾円で雇用契約を結んでいた

からゆきさんは外貨獲得に大いに貢献した

外貨獲得の国策であった

ビデオでは福沢諭吉も労働輸出で外貨を獲得することに賛成していたという



からゆいさんが所有していたホテル

中には少数だが成功したも者もいたが、多くは悲惨な生活を送っていた

当時の写真



島原弁天山大師堂の塔建立のため、遠い外国の土地で働く女性達は、多額の寄付をしました
地で聞いた話ですが

「口之津の大きな民家はからゆきさんが建てたもの」と言われている

現地で聞くと「昔からのもの」と答える



記念碑

フェリーターミナル、バスターミナル、民族資料館



「からゆきさん」の詳しい展示がある「口之津歴史民俗博物館」へ歩いて向かう

赤い橋の左が前回紹介した歴史資料館分館

いい所だ

この建物は



口之津港ターミナルと歴史民俗資料館本館

案内パンフレット



ここの資料館は「からゆきさん」についての展示がある

富国強兵時代の外貨獲得の手段であった



【ちぐはぐ日本史】「からゆきさん」家族のために身を捧...

原城跡から口之津まで来て時間は午後 2 時
ここで昼食 駅前のレストラン



多くが休業しているがここは営業中 地元客が多い店
メニュー



名物の長崎皿うどん定食

皿うどんは赤いかまぼこを使うのが特徴

このボリューム 麺は揚げ麺

スーパーマーケットの惣菜でも「あんかけ焼きそば」「中華丼」が売れている

肉より野菜の多さが人気のようだ



酢と練り辛子

梅おにぎりと漬物



焼き餃子 専用のお皿がおもしろい

アレックスサンドロ・ヴァリニアーノ神父 (1539 年～1606 年)



1582年、遣欧少年使節団をヨーロッパまで引率した人物
イタリア アブツツォ州キエーティ市カリキエーティ基金から寄付された
当時の口之津港の様子
大型船が入り出している国際港



公園のモニュメント
今回は「からゆきさん」の特集口之津の歴史が描かれている



からゆきさん 「島原の子守歌」は宮崎康平氏が、明治期に口之津港から石炭船に積み込まれて
送られた「からゆきさん」の哀歌である
2階の資料館へ



戦国時代に外国船が来たことから始まる
館内



口之津港
石炭を運ぶはしけ
この船から大型船に積み替える



三井の家紋
展示物
輸入品と輸出品「銀、工芸品 等」と書かれているのが意味深だ
詳しく歴史を調べている時間がない



からゆきさんのコーナーへ

教科書では絶対教えない勇気あるコーナーだと思う ユーチューブより



【ちぐはぐ日本史】「からゆきさん」家族のために身を捧...

【ちぐはぐ日本史】「からゆきさん」家族のために身を捧げた少女たち...海を渡っての娘身売りがあった富国強兵時代の貧困問題!歴史に葬られた少女たち www.youtube.com



廣田言証(ひろたごんしょう)師



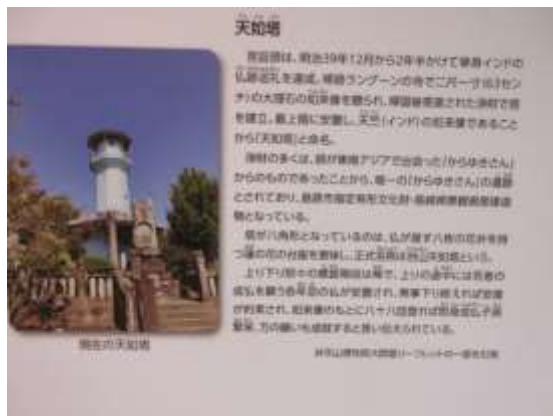
アジア、ロシアを旅してからゆきさんの実態を見た人物

天如塔(てんにょとう) からゆきさん遺跡

言証氏明治 39 年から 2 年半かけてインドの仏跡巡礼を達成

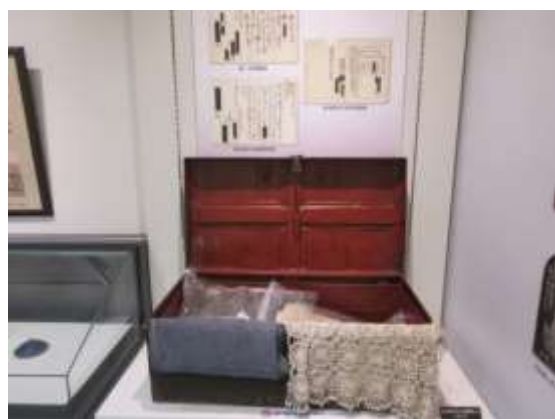
帰路ラングーン(ミャンマー)で63cmの大理石の如来像を贈られ、帰国後浄財で塔を建立

浄財の多くは、師が東南アジアで出会った「からゆきさん」からのものであった



日本は明治維新を迎え、海外に出稼ぎに行く者も多く現れた

大阪大学文学部 林葉子先生寄贈



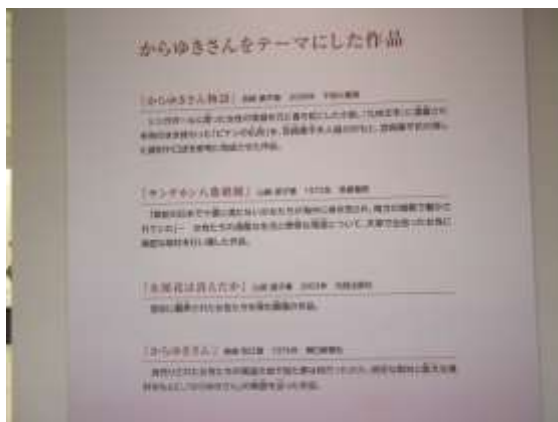
展示品

持ち帰った宝石箱と懐中時計 両親へのお土産か

涙があふれ出る



現地引き上げの時、やかんの下に宝石を入れ、その上に大豆を埋めて隠し持って帰国
からゆきさんに関する出版物



私の読んだ本は、山崎朋子著「サンダカン八番娼館」1972年

この本を知ったきっかけは、ずいぶん前に銀座のバーのバーテンダーが元船員で「サンダカン(マレーシア)という港には、かつて日本人娼館があり、からゆきさんのお墓が残っている」と話してくれたことから まだサンダカンには行っていないが、シンガポールの娼館跡とからゆきさんのお墓にはお参りした(シンガポール特集)

ビデオを見る



時を超えて マレーシア サバ州サンダカン



フィリピンに面したマレーシアの港

サンダカン日本人墓地

墓石は日本を向いているという人もいるが、逆を向いているというのが正解らしい



女街

「アジアには高額でいい仕事がある」と勧誘

「女郎屋に売られる」と言えばだれも行かない



シンガポール(ビデオより)

当時の娼婦街跡



この辺は「ステレツ(ストリート)」と呼ばれていた

当時の面影は殆ど残っていない



イメージ(ビデオより)

この写真は日本人ではないように思うが

この写真はリアルだ

右に立っているのが「廣田言証」か

まだ子供だ 再び涙がでる



シンガポールの日本人墓地

ここは？



木下クニさんの墓

「サンダカン八番娼館」のモデルになった人物
昭和 41 年(1966 年)7 月に亡くなっている
この本を何度も読みシンガポールを歩いてみた
サンダカンは機会をみて訪れたいと思っている



シンガポール(2018 年 9 月訪問)
この交差点に娼館があったという
何も残されていない



HYLAM STREET



MALAY STREET の交差点
STREET をステレツと呼んでいた



シンガポールの日本人墓地
「からゆきさん・精霊菩提」



日本人娼婦が初めてシンガポールに現れたのは 1870 年から
からゆきさんの墓



島原の子守歌



悲しい詩だ

NHK「青天を衝け」では表の華やかな部分だけを取り上げているが
明治の「富国強兵」の資金の一部は誰が集めたのか

それは「娘子軍(じょうしぐん)」だ 渋沢栄一と三井の関係は深かった

この悲惨な事実を渋沢も知っていたはずだ

さらに、先のYouTubeによれば福沢諭吉はからゆきさんを奨励していたという

普賢岳を見ながらホテルに戻る



ホテル近くの橋



何か印象に残る子供像
何とも言えない

島原、天草は歴史を学ぶにはいいところです
次回は島原城と資料館を紹介します

長崎県島原市 島原城(今年4月訪問)
ツツジが満開



郷土料理にはその土地の歴史が詰まっている
「姫松屋」お城のすぐ前



具雑煮の名店「姫松屋」

うどんもおいしそうだ



店内

具雑煮の由来

「島原の乱と具雑煮」

1637年冬の島原の乱の時、天草四郎は籠城の際、農民に餅を兵糧として蓄えさせた

山や海からいろいろな食材を集めて雑煮をつくり約3カ月戦った

それをもとに初代糶屋が味付けを凝らして生み出したのが「具雑煮」の始まり

二代目姫松屋嘉久平により屋号を「姫松屋」として現在に至っている

380年くらいの歴史があることになる



土鍋が出てくる
これが具雑煮



海のもの、山のものがたっぷり入っている
澄まし汁タイプのお雑煮だ 上に見えるのはうなぎ
だしがよく効いていておいしい
デザートは「かんざらし」



「湧き水と白玉団子」
白玉粉で作った団子を湧き水で冷し、はちみつ、砂糖等につくった蜜をかけたもの
ひんやりして暑い時には最高だ

みやげもの



旧市街を歩く 鯉の泳ぐ街



いろいろな所から湧き水が湧いている



湧き水庭園 四明荘

坂本龍馬 自撮りは出来ない



龍馬長崎初上陸は島原であった 龍馬や勝海舟が通った道



郷土料理「ほうじゅう」



店内に川が流れている



メニュー

まずはバーボンハイボールから



お通し 左は小さな貝の煮物

イギリス

「島原の湧き水とイギリス藻」

海藻の練り物 ここは魚の煮たものが入っているにこごりのようだ

由来は海藻の「イギリス藻」を水にさらし具材を混ぜ固めたもの



春がんば(ふぐ)料理 島原ではふぐを「がんば」と呼ぶ 江戸時代ふぐを食べることは禁止されていた ひつぎ(棺 がん)をそばに置いてでも食べたという意味で「がんば」と呼ばれた

3月から5月にかけて島原は春ふぐの最盛期



ふぐの湯引きと唐揚げ、ふぐの押し寿司

皿の奥は「がね」だったような気がする ふぐに目が行き印象が薄い
表面だけサッと湯に通してある 身が厚い



ポン酢で

厚めにスライスしてあるためふぐの味と食感を楽しめる
うまい！ ふぐのからあげ 揚げたてでサクサク



小さなふぐだが身は厚い 油と淡白なふぐとはよく合う
ふぐの押し寿司



上はふぐの湯引き シャリの中に大葉と梅肉

×は島原ソーメン

「島原ソーメンと小豆島」これも現地で食べておかないと

島原手延べソーメンは、「島原、天草一揆」で住民が殆どいなくなってしまったため

幕府の移民政策で各地から移住者が集まった

その中、小豆島から移住してきた人々が「そうめん」を伝えたのが始まり



シンプルな見た目だが、スープがダシが効いておいしい

満腹だが名物の「くろべえ」を食べて帰らないと未練が残る

店に紹介してもらい歩いて向かう

六兵衛(ろくべえ)

「飢饉とくろべえ」島原半島の食糧危機に、六兵衛という人が「さつま芋」の粉末に「山芋」を入れ

熱湯でこねてうどん状にしたものだそうだ 食べてみないと分からない

それにしてもこの歳でよく食べる



店に入ると店主がバツの悪い顔をしている
麺が終わってしまったようだ
こういう時は海外でよく使う手
この世の終わりのような顔をして残念がる
それでもだめならひざから崩れ落ちる
そこまでなくても店主が気を効かせて
「残った麺を集めれば半分ほどできる」というのでお願いする
お腹いっぱいであったためラッキーであった
英語のメニュー



六兵衛ハーフサイズ 麺は少し太めで茶色



澄んだスープで、ツルんとした変わった食感
素朴な味だ 冷して食べてもおいしそうだ
ムリを言って申し訳ありませんでした
ごちそう様でした
名物を食べられ満足、満足
以上、島原の郷土料理を堪能
次回は島原城を紹介します
ホテルの部屋からの景色



石垣は当時のもの



島原城跡

現在は緑色部分だけが残っている
なぜこんなに細長い城を築いたのか

グーグルで見ると、島原城の長い石垣(写真右側)は熊本(熊本城)を向いている



城に入る前にネタバレ



この橋と道は当時はなかった
観光用に石垣を崩し後から橋をかけたもの
当時の石垣



よく見ると

色が変わっている石垣が丸くある
これが秘密の抜け穴ではないかと言われている
ここを出て排水口から海に逃げられるのではと言われている



右と左の塀に注目

左の塀

ここから右側に秘密の通路があった
道を通すための工事で見つかったのか



破風のない天守閣

天守閣のすぐ脇に駐車場 これは興ざめた



島原城の由来

島原城案内



🏯 島原城を案内しました 🏯 :

もっちゃんTV · 3996 回視聴 · 11 か月前

ユーチューブ 地元ガイドが案内する島原城

 島原城を案内しました  島原城を案内しました(^-^´)今回は長めの動画になってますが、沢山ある

歴史の中から少しでも紹介させて頂きました。是非島原城へ行ってみてください😊 www.youtube.com



この祠は



奥に初代藩主「松倉重政」
重政公と築城工事中に死亡した人々を祀っている

松倉重政は、徳川家康に仕え、関ヶ原の戦い、大坂冬、夏の陣にも軍忠を尽くした
1616年、島原半島を領することになり7年余りの歳月を費やし島原城を築いた
*4万国でありながら見栄を張って、10万石相当の城を建てたことが、領民を苦しめた



奥に見える山が雲仙普賢岳

三層の櫓



破風の家紋 神社が祀られている



人力車もあるが
展示物はあまりない
時計台と鐘楼



堀の鉄砲穴



弓穴

堀の外に向けられている 奥に海が見える
この像は



織田信長像

重政は織田信長家臣奈良「筒井順慶」の右近「松倉重信」の子
これは



天草四郎

喝！ を入れられる



迫力がある

怖くて指先の前に立てない

日蓮上人像



この巨石は



景華園遺跡(弥生時代～鎌倉時代までの住居跡)から移された石

重量は 18.4トン

藤棚の藤が丁度満開



天守閣

キリシタン墓碑

奥に見えるビルは文化会館

そこが二の丸

確かに細長い城だ



キリシタン墓碑

耳をすませば石たちの声



これらは水道管に使われた石

キリシタン墓碑

雨ざらしになっているのが気になる



1562年領主「有馬義直」はキリスト教の布教を許す
松倉時代はキリスト教を禁止 島原の乱(1637年)が起きる
現在島原半島では約120基余の墓碑が発見されている
風化を防ぐため室内に移動したほうがいいと思う



十字架の変形

海側の堀と石垣 海側で見ると相当大きな城のように見える
これが見栄であった



振り返ると奥に島原駅

海方向は下り坂になっている

低い部分は時々水に浸かるため、武家屋敷は城の後ろに建てられている

海側から見える島原城

いかに見栄を張っていた城か分かる

海の前には熊本城

堀に植えられているのはレンコン 毎年レンコン取りのイベントあるらしい



こんな花も



堀を挟んで二の丸(現在は文化会館)

ここに木の橋が架かっていた 橋を崩せば本丸は孤立し逃げ道がなくなる

そのため秘密の逃げ道がつくられたのでは ここまでくる観光客は少ない

石垣



石垣っておもしろい 石垣の説明
二の丸跡



城の西側の堀

今は空堀になっている 左は二の丸に繋がる橋がある

本来であれば二の丸を通して本丸に向かうのが筋 観光用に道をつくってしまったため趣がない
次回は天守閣の歴史資料館を紹介します

島原城キリシタン資料館

以前、大分県高田のキリシタン資料館を訪れた時、島原の資料館には多くの資料、遺品があると薦めてくれた



いろいろ展示はあるが、時間もあまりないのでキリスト教関連だけに集中
フランシスコ・ザビエル



マリア像 隠れキリシタンのマリア観音菩薩像



お腹の部分に
目のようなものが見える



花十字模様井



井の底にうまく十字がデザインされている
綾部灯籠(キリシタン灯籠)



下の竿(さお)に注目
丸と長方形で十字架に見えるというが
私はそうは思わない 詳しくは後日

「古田綾部」は武士であり、茶人、千利休の高弟であったという
竿の部分は地中に埋められていた可能性も



遠くから見ると十字架に見えるという
 竿の下部にはマリア様か宣教師の姿が彫られている

島津家のキリシタン灯籠

鹿児島 島津玉里庭園のキリシタン灯籠(2020年11月訪問)

島津家は江戸時代「古田綾部」と交流があった

どれもアーチ状の中にマリア様



加藤家のキリシタン灯籠

山形県鶴岡市 加藤忠廣公家士の墓(2021年5月訪問)

これは保存状態がよく文字?もレリーフもはっきり見える

熊本城の加藤家も安泰ではなかった

清正の長男忠廣は10万国一代限りの条件で鶴岡に移封



隠し十字入地蔵方灯笼



火袋の底面に十字架が彫られている
集会時に使われていた
豊後国岡城主中川家の「中川クルス(クロス)」紋



大分県高田市の岡城城主中川家はキリシタン大名であった
そこから家紋になごりが残っている

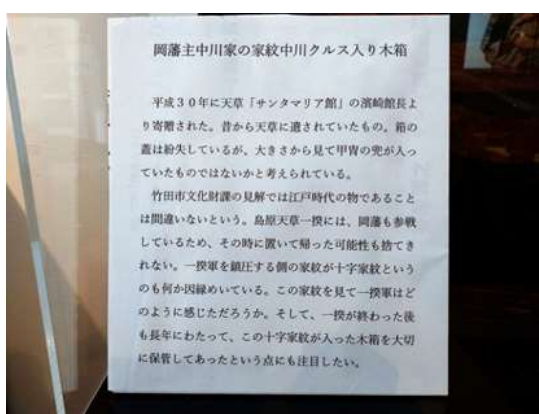
切高台 萩焼茶碗

萩焼のお茶碗の広台(底)に十字が刻まれている



中川氏の鎧箱

大分県竹田 キリシタン資料館 (2020年11月訪問)



島原、天草一揆には岡藩(中川氏)も幕府軍として参戦している

同じキリシタン大名であったため、謀反を起こさないよう監視されていたという

平成 30 年、天草「サンタマリア館」より高田キリスト教資料館に寄贈された

キリシタン墓碑



島原半島で 120 基の墓碑が見つかった

名前、クリスチャン名、殉教日などが刻まれている
城外に展示されている

キリシタン禁制の制札

この制札は 1682 年(現存する最古のものと言われている)



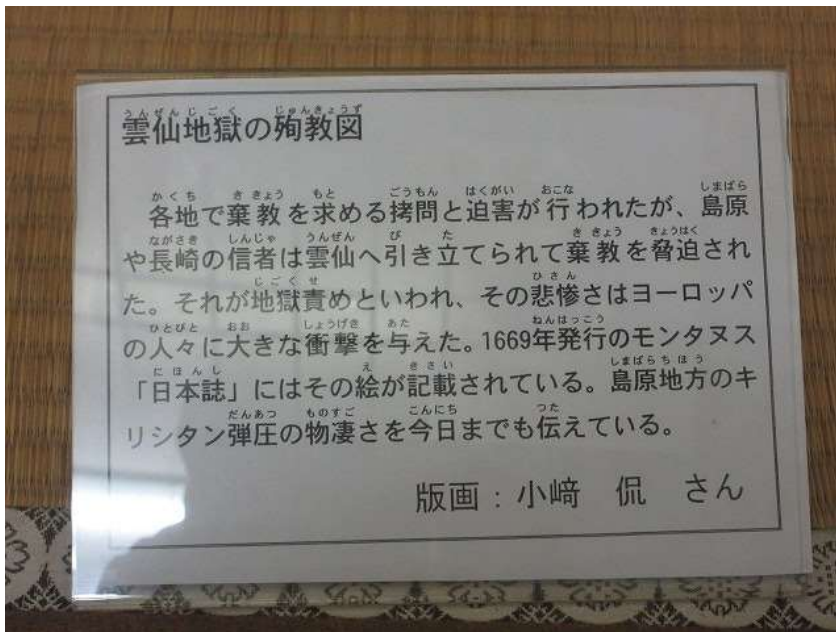
1633 年から明治維新まで徳川幕府が全国に建てたもの
宣教師の懸賞金は銀 100 枚であった



雲仙地獄の殉教図



各地で棄教を求める拷問と迫害が行なわれてたが、島原や長崎の信者は雲仙に集められた
1669年、発行のノタヌス「日本誌」にはその絵が記載されている



島原の乱 大手門の戦い
最初の一揆は島原城攻撃から始まった



1637年10月25日、島原藩主の圧政に反発し島原地方南部の農民が一揆をおこして、島原城を攻撃

しかし攻略できず引き上げ、原城跡に立ちこもる

ここから島原の乱が始まる

天草四郎陣中旗



舶来品の布に油絵で「いと尊き秘蹟ほめ尊まれ給え」と書かれている

聖杯の上にあるものは制餅

原城攻防図模型

海側が原城跡 海には戦艦が見える



原城跡に立てこもった一揆軍の意気は高かった
幕府、大名は12万の軍勢で取り囲み、兵糧攻めをとる



こんな大砲も
「石矢火台」と書かれている
これはオランダから持ち込まれた大砲か

オランダ船原城砲撃の図

外国船が現れた時、一揆軍はスペイン船が加勢に来たと大いに喜んだ
しかし、砲撃されオランダ船だと分かると落胆



幕府上使「松平信綱」は平戸のオランダ商館長に「オランダ船を有馬表へ回航させよ」と協力を依頼

有馬沖に着き、原城を砲撃、また前に送っておいいた大砲で陸上からも攻撃した

しかし、「外国人に援助を仰いだ〜」と批判され、引き揚げを命じた

その間 426 発の砲撃を加えたという

*「カトリックとプロテスタントとの戦い」でもあった

原城出土の砲弾



原城付近は当浅であつたため、オランダ船の攻撃はあまり効果がなかった
砲弾は畑や海底から出土したもの
このあまり気持ちの良くない水墨画は



左に天草四郎、右に義海和尚(ぎかいおしょう)
キリスト教と仏教の戦い
義海和尚の薙刀(なぎなた)



島原城下町・水頭山「善法寺」の義海和尚は、この薙刀を手に一揆軍の中に切り込み奮戦
それを賞されて他寺と別扱いになったという

旅する長崎学

本を見ながらキリシタン世界遺産を訪ねてもいいな

長崎空港近くの大村市も興味深い

キリシタン大名大村善前の棄教と取り締まり

遣欧少年使節団の一人「千々石ミゲル」の棄教の理由は

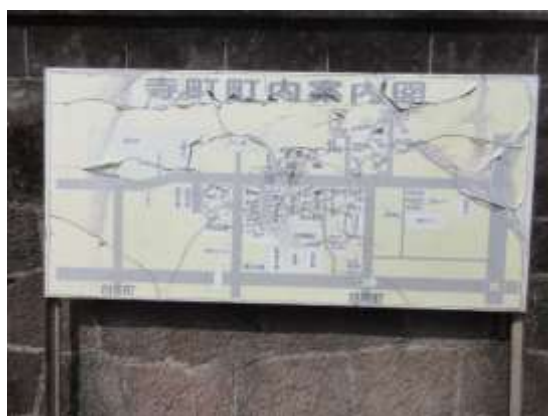


天守閣からの眺め 島原駅



島原鉄道の歴史 島原鉄道は大正から昭和にかけて、博多への直通運行など地元の発展に貢献した

善法寺に行ってみる



こんな道を進む

寺の前にはさかきを売る店

スーパーマーケットの花売場でよく見かけるが専門店は初めて見た

信仰の厚い地域だ



さかき善法寺門



本堂 中で若いお坊さんと話をする 言われている通りだが、当時のことは詳しくわからないという



「とらわれた緑の深さがあればこそ 出会いの深さ つらきわかれよ」

「とらわれ」とは、信仰心という意味か

島原のスーパーマーケット「エレナ」

(株)エレナ 所在地 長崎県佐世保市

エレナ 44 店舗(内 4 店舗はフランチャイズ)、なかよし村 2 店舗、エレナミニ 1 店舗、ツタヤ 4 店舗

ダイソー13 店舗



売上高は 558 億円(2020 年 2 月)

資本金 5000 万円

店舗数の割には一店舗当たりの売上が約 10~11 億円は、人口の少ない地域で営業しているからだ

それでも帳尻を合わせないといけない

地方は地方なりの苦労がある



エレナで宝物探し

入口のインスタペーカーリーは 100 円セールを実施

青果売場は朝市を実施



4月はレモンが高い時期

1個98円、2個入128円と2個入が安い

鮮魚売場の平ケース

こんぶ塩さば 4切れ入 398円

サーモンはビデオでメニュー提案



長崎の刺身コーナー

シマアジ刺身、キントキ刺身など

寿司売場



「種類たくさん食べたい方に」665 円

「今日はちょっと豪華に(ウニ、イクラ入り)」839 円

寿司の 30 貫大型パックの並べ方がユニークだ

縦に同じネタを並べている

本まぐろ寿司

本まぐろ 8 貫 798 円 本まぐろ主役の握り寿司 598 円

陳列数は少ないがあることが重要



精肉売場

島原和牛コーナー

ここも陳列数は少ないがあることが重要

週末や盆暮れは需要が高まると思う



タレ焼きホルモン、タレ付きホルモンコーナー

雲仙ソーセージ 498 円

これは買い



第3コーナーは惣菜売場

かしわおにぎり

2個 140円、3個 210円、5個 350円の3SKUを品揃え

上段はおにぎり



ちらし寿司 198 円

ちらし寿司も島原の名物だ

のり弁当 280 円(広告の品)



サラダコーナー

インスタアの小分けパック

日配品水物コーナー

特に豆腐の品揃えが面白い

山芋豆腐 218 円 京のはんなり湯葉おぼろ 198 円



温泉豆腐

温泉豆腐と温泉水の売場

佐賀の嬉野温泉の名物

湯豆腐に温泉水(アルカリ)を使い豆腐が溶けるのを楽しむというもの

大村の無調整豆乳 118 円



豆乳とうふ(たれ付) 94 円

これもおもしろい

買い忘れた

練製品コーナーの上段の品揃えが面白い

ちゃんぽん、皿うどんに使う練製品 198 円

二色はんぺん 298 円



お魚ステーキ 298 円、いわしハンバーグ 198 円、いわしの丸太棒 298 円

LLC の商品だ

カットきくらげ 98 円

料理に使える練製品をよく揃えている



高千穂牧場飲むヨーグルト 138 円



寒天入り飲むヨーグルト 68 円

安すぎ感あり



和菓子コーナー

平台ではなくエンド部分の多段ケースに定番化



まんじゅう 70 円

食べてみたい和菓子ばかりだ



雲仙国見生まれの福岡育ち

ミルククレープ 100 円

乾麺売場



ソーメン売場

島原素麺



餅売場

おもしろい売場を見させていただいた

ありがとうございます

もう少し時間があればもっと宝物が発見できたが

視察した感想は

44 店舗も展開するチェーンストであるため標準化ができているようだ

生鮮食品は鮮度がよいが、人口の少ない地域の品揃えによる差別化は難しいようだ

その分、日配品とドライ食品の品揃えがおもしろい

特に、豆腐、練製品、和生菓子、乾麺売場は見たことのない商品をよく集めていて楽しい

生鮮売場は今後、ロピアのようにカテゴリーキラー化が進むと思われるがどの部門に注力するか

日配、ドライ売場でもラインロビングを行うことで特徴のある売場ができることを学んだ

OKストアのヨーグルトの品揃えは日本一のように

購入商品

割子島原そうめん 324 円

これは食べておかないと



おぼろ(とろろ)昆布うめおにぎり 108 円

これは珍しい 山芋とうふ 235 円(税込み 以下略)



豆腐の上の部分にすりおろし生芋 上から醤油をかけていただく
おもしろい食感だ

お魚ステーキ 321 円

家に持ち帰って試食してみる



見た目はまるで豚肩ロース肉のステーキだ

温めて食べてみるとやはり練製品 脳が混乱する それにしても出来がいい

島原工房ソーセージ 410 円

これは旅行中にホテルでかじった これがうまい



高千穂牧場飲むヨーグルト 149 円

ご当地飲むヨーグルトは必ず飲むようにしている



寒天入り飲むヨーグルト 73 円

寒天が入っているため少しドロツとした食感 食物繊維+ヨーグルト効果を狙ったいい商品だ
安過ぎ感あり

中華饅頭 270 円

長崎中華街の影響か



ミルククレープ 108 円 クレープをうまくたたんでいる

島原素麺 116 円 この由来は前に説明した



五島手延べ素麺 321 円

五島うどんから工夫して素麺をつくったらしい

くまモン熊本ラーメン 105 円

九州では乾麺のラーメンをよく食べる



一蘭ラーメン 400 円 福岡市に本社を置く天然豚骨ラーメンの乾麺

あごだしもみのり 138 円 幅広にカットされた味付け海苔



黒棒 203 円 これは昔からの定番

右が雲仙普賢岳



30 年経っても火砕流の傷跡が残っている

島原最終編

武家屋敷を歩くと右の塀に



鉄砲穴に花が



弓穴にも花が

島原城のジオラマ



武家屋敷のジオラマ

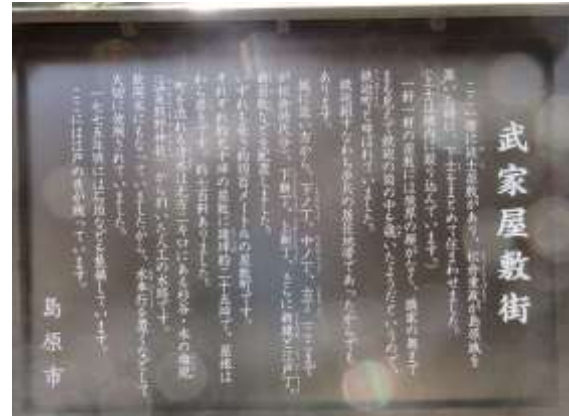
キッチンと整備されていた

天守閣見た武家屋敷方面



説明

武家屋敷を歩く



松倉重政が島原城を築いた時に、下士をまとめて住まわせた

上士は城内に取り込んでいた

屋敷には境界の塀がなく、隣の奥まで鉄砲のように見えていたことから「鉄砲町」と呼ばれた

石垣の説明



ここが観光案内にも出てくる光景

道の中央に川

これだけ幅があり水があれば防火にも役立っている

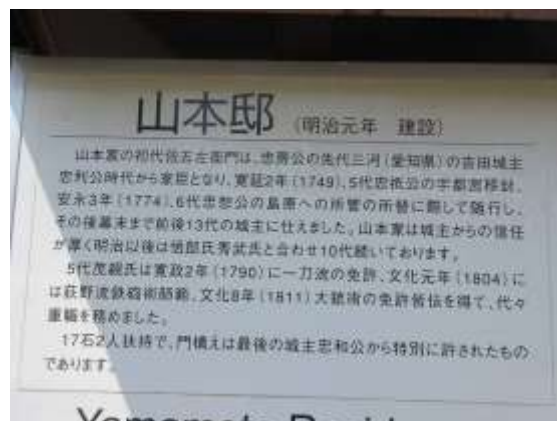


川の上流にある武家屋敷は上席だろう



当時の図面

山本邸



山本家は 10 代続き、現在も続いている
屋根は瓦を使っていない



庭もキレイに整備されている
屋敷内



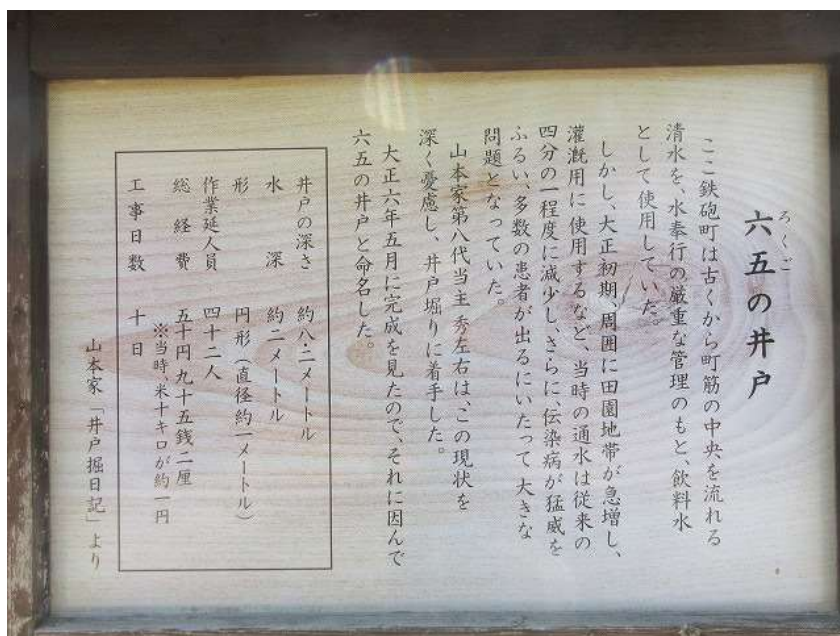
奥の壁の上部に槍が置かれている
台所



井戸



屋敷の中央に流れる川は飲料水にも使われていた
しかし、伝染病が猛威を振るい多くの患者を出してしまった
そのため井戸を掘りだした



打ち込み接ぎの石垣



切り込み接ぎ
石垣の上には小石が置かれている



風情ある石垣



ドラッグストア「コスモス」



その敷地内に「はぎせん市場」
この組み合わせがおもしろい
ドラッグストア+生鮮市場
お互い足りない分を補完している
これはスーパーマーケットにとっては脅威だ



店内



魚売場

これだけの物量



惣菜売場

米飯の平台



寿司売場

サンシャイン中央街



こんなオブジェも

島原温泉 ゆとろぎの湯



観光案内に載っているため期待したが、中は町の銭湯 地元客が殆ど
中で声をかけてくるのは私の素性を探るためか

時間があつたので「ねはん像」を見に行く



こんな人工滝も

庭に一つ欲しい

江東寺 ねはん像のある寺



隠元は江戸初期に渡来した中国時代の僧侶

1654年、4代将軍家綱の招きで3年間の約束で来朝

長崎の興福寺、栄福寺に住しました

高い所に足の裏が見える



お釈迦様の入滅を悲しむ弟子たちと動物が写實的に描かれている

足の裏が見えるよう横になっている



松倉家の墓

松倉重政の墓



松倉重昌の墓

悪政を行い江戸で斬首された重政の長男勝家の墓はここにはない

説明文



翌日、島原駅～諫早バスで鹿児島空港へ向かう



島原の子守歌像

島原城、普賢岳を向いている

何か意味深だ



石垣の上に小さな石

島原の乱で原城からこのような石が投げられた

しかし、この型は



大分県高田 岡城の階段脇の石垣の形によく似ていませんか？

キリスト教関連史跡ではないかと思う

駅の売店で インスタント「にゅうめん」



そうめん茶漬け
島原鉄道 諫早行き



島原鉄道の歴史が書かれている
ここは



大三東駅
日本の鉄道駅で一番海に近い駅
キリンレモンの宣伝に使われている駅

奥に見えるのは諫早湾の堤防 諫早湾干拓の目的で作られた



諫早からバスで長崎空港へ

空国からの景色 海の向こうが大村 長崎五島うどん つばき



メニュー

郷土の味五島うどん、おでん、いなり寿司を注文



長崎おでん

ダシの効いた薄味のおでん



五島うどん

中太のうどんでごぼう天とよく合う

先端に黒胡麻の入った三角いなり



Empty Dishes

ごちそうさまでした

羽田空港へと向かう

次回は戊辰戦争の戦場になった福島県「二本松城」を紹介します